

公益財団法人日本生産性本部（理事長・松川昌義）は四月二二日、新入社員の意識に関するアンケート調査の結果を発表した。それによると、今春の新入社員は、ジェネラリストとして成長したいとする回答が、過去最高水準の五八・四％に達した。同調査は、一九九〇年から実施し、今回が二四回目。三月下旬から四月にかけて、同本部主催の新入社員教育プログラム等の参加者を対象に行ったもので、有効回答数は一九三一（有効回答率九八・九％）。

ジェネラリスト志向が増加傾向

それによると、自身のキャリアの考え方に近いものを選択する設問について、「いろいろな仕事や持ち場を経験させて、ジェネラリスト（会社全般の仕事が見渡せるような人）としてきたえる職場」を選択した割合が、過去二〇年で最高水準の五八・四％となった。一方、もう一つの選択肢である「ひとつの仕事や持ち場を長い期間経験させて、スペシャリスト（専門家）としてきたえる職場」を選択した回答は四一・六％となっている。

過去の調査と比較すると、一九九〇年の調査開始当初は、ジェネラリスト志向が六割近かったが、その後、二〇〇〇年にかけて、一〇ポイント以上低下。しかし、それ以降は、若干の上下

図1 「ジェネラリストとしてきたえる職場」と「スペシャリストとしてきたえる職場」の回答割合(%)

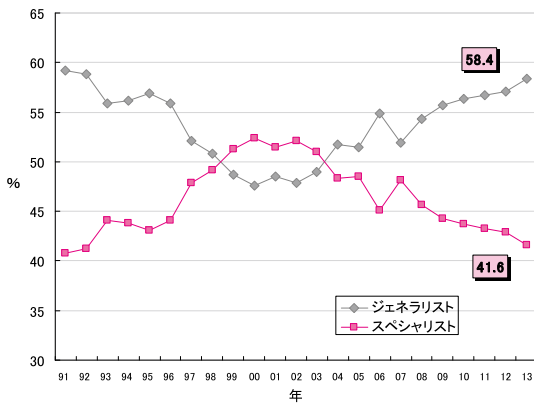
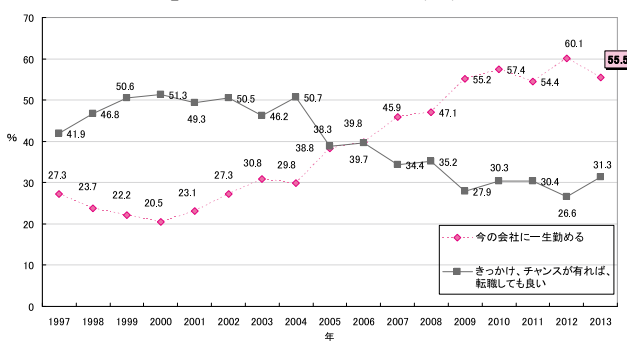


図2 「今の会社に一生勤める」、「チャンスがあれば、転職しても良い」それぞれの回答割合 (%)



新入社員のチャレンジ意識を判断する質問項目として、海外勤務と転職の意向も聞いている。「海外勤務のチャンスがあれば応じたいか」に対して、「そう思う」とする回答が五五・〇％となった。二〇一一年の設問開始以降、継続して過半数を

転職志向が若干増加

上回っており、過去三年とも五四〜五五％の幅で推移している。また応じた理由としては、「視野を広げたい（三九・四％）」が最も多く、次いで「国内では経験できない仕事に挑戦したい（二六・三％）」、「キャリア形成に役立たせたい（一七・五％）」と続いている。転職については、「今の会社に一生勤めようと思っている」とする回答が前年比四・六ポイント減少し、五五・五％となった。一方、「きっかけ、チャンスがあれば、転職しても良い」とする回答は前年比四・七ポイント増加し、

SNS利用は二〇・四％

今年度の調査から新設した「SNS (Social Networking Service) を就職活動に利用しましたか」に対し、「はい」との回答が二〇・四％となった。「はい」の回答者に対して「利用して良かった点、悪かった点」についてフリーコメントを求めたところ、良かった点では「周りの人の状況を把握することができた。必要な情報を簡単に入手できた」「今現在働いている人の生の声を知ることができた」「SNSでしか募集していない説明会に参加できた」があり、悪かった点では、「他の人の状況を知り、焦ってしまった」「大量の情報に振り回された。情報の取捨選択に迷った」などがあった。

(調査・解析部)

三一・三％となった(図2)。

転職志向の推移をみると、一九九九年から二〇〇四年にかけては、五割前後で推移していたが、二〇〇五年以降は低下傾向に転じ、今年若干、上昇したものの、ピーク時に比べて二〇ポイントの下落となっている。

反対に「今の会社に一生勤める」という終身雇用希望が二〇〇〇年の二〇・五％を底に、上昇カーブに転じ、前年は六〇・一％の過去最高値を記録。今年前年比約五ポイントの低下となったが、五割超の水準を維持している。

今年の調査から新設した「SNS (Social Networking Service) を就職活動に利用しましたか」に対し、「はい」との回答が二〇・四％となった。「はい」の回答者に対して「利用して良かった点、悪かった点」についてフリーコメントを求めたところ、良かった点では「周りの人の状況を把握することができた。必要な情報を簡単に入手できた」「今現在働いている人の生の声を知ることができた」「SNSでしか募集していない説明会に参加できた」があり、悪かった点では、「他の人の状況を知り、焦ってしまった」「大量の情報に振り回された。情報の取捨選択に迷った」などがあった。